

## 平成 25 年度第 2 回国立大雪青少年交流の家施設業務運営委員会管理運営部会議事要旨

日時：平成 26 年 2 月 26 日（水）13:30～14:30

場所：国立大雪青少年交流の家 第 4 研修室

運営委員出席者：笠井委員長，瀬川委員（部会長），山内委員，村田委員 計 4 名

欠席者：片岡委員，西海委員 計 2 名

国立大雪青少年交流の家出席者：秋山管理係長，河内管理係員 計 2 名

（●事務局 ○部会長 □委員）

### ●開会宣言

会議時間・資料の確認，欠席委員の報告，施設業務運営委員会管理運営部会担当職員の自己紹介，部会長による議事進行を確認。

### ●部会長による議事進行

#### ○部会長

本日の審議予定として，一議案 30 分程度を目処として審議を進めさせていただく。まず，1 点目の議事「平成 25 年度事業報告書（案）・平成 26 年度運営計画（案）」について。事前に配布している，平成 25 年度の実績報告書（案）と，平成 26 年度の運営計画について，委員からの意見等があった部分を修正し赤字により加えている。主な修正点のうち，管理運営部会の審議に係る事項について，事務局より説明願いたい。

### ●事務局

資料 No. 1 をご覧頂きたい。事前に資料を配付し意見をいただいた部分は赤字で修正している。管理運営部会の審議に係る主な事項について説明する。

2 ページ目，赤○で記載の「本部から配分されている～」の部分。これは大きな実績であり，重要な部分であるため，【実施実績】2 つめの黒○「施設業務運営委員会の意見を踏まえて～」とは別に，詳細な記述を追加したものである。その他，字句修正等については割愛する。

続いて資料 No. 7（運営計画（案））については，次のとおりである。事前に配布している資料に既に加えている箇所もあるが，昨年度との大きな変更点を説明する。

## 第2 管理運営方針

- ① 3 ページ目, 50 周年記念事業券等ワーキンググループを加えた。
- ② 6 ページ目, 環境配慮・省エネの項目を加えた。

## 第7 予算, 収支計画及び資金計画方針

- ① 16 ページ目, 自己収入の確保に係る行動計画の策定の項目を設け, 自己収入額を具体的に数値として記述した。
- ② 15 から 19 ページ目, 財務会計業務に関する事項を詳細に記述した。

### ○部会長

ただ今事務局から修正点について説明があった。本修正について意見があればいただきたい。

—意見なし—

### ○部会長

修正箇所に限らず質問, 意見等あれば発言いただきたい。

### □委員

部会と離れるが, 各市町村の校長先生から, 「大雪の姿が今までより見えるようになった」という声をいただいている。これは各所への「のぼり」設置や広報活動等, 大雪職員の地道な努力による成果ではないか。非常に良いこと。また, 荒天等の理由により研修が予定通りいかなかった時の対応が良かったという意見もあった。物事がうまく進まなかった時にどうするかという体制作りが大雪ではできているということ。この場を借りて伝えさせていただく。

### ●事務局

非常に嬉しいお言葉をいただいた。感謝。

### □委員長

資料 No. 7, 2 ページ目の組織図の中に, 運営協議会(委員会)を入れた方が良いのではないか。運営協議会(委員会)として取り組んでいるというアピールにもなる。

また, 同ページ内, 「第2 管理運営方針」にも, 7 ページの「第3 事業方針」にあるような, 運営方針を端的に説明するリード文があると良い。管理運営方針をより理解し易くなる。

### ●事務局

本委員会にて協議し、修正を加えたい。

○部会長

他に質問、意見等あれば発言いただきたい。

—質問、意見等なし—

○部会長

それでは、本件については承認とさせていただきます。

○部会長

2点目の議事に入る。「管理運営部会 平成25年度の成果と平成26年度に向けての課題」について事務局より説明願いたい。

●事務局

部会資料の資料 No. 1 をご覧いただきたい。平成25年度の成果としては、以下の2点がある。①「優秀な非常勤職員人材の採用」と、②「50周年記念事業の準備開始」である。①は「国立青少年教育施設の管理運営の在り方等について」でも提言されているが、繁忙期における質の高い非常勤職員の確保及び活用方策について検討を行うものである。今年度は各委員の意見をもとに、登山分野に秀でている職員を採用した。成果としては、この職員が過去に当施設で勤務した経験や技能を活かし、研修支援事業に係るガイドマップ等を作成できたことである。また、第2回管理運営部会にて「若手人材の採用」が重要だとの意見をいただいた後、大雪で独自採用を実施。任期が平成26年4月1日から3年間の常勤職員を採用した。②は、国立中央青少年交流の家が既に開所50周年を迎えていることから、実際に現地へ赴き情報収集を行った。その際、機構本部との打合せも行い、部会長との協働という形で実施。各地で打合せを行い、寄附金趣意書の作成・企業訪問計画等を策定した。

●事務局

今後の課題及び平成26年度の審議事項についての説明。

○部会長

事務局より説明いただいた。今年度は2つの課題に絞って集中審議をしてきた。その結果、資料のとおり、一定の成果が上がっていると感じる。「新しい公共」型の管理運営は、当初、平成26年度から本格実施となる予定であったが、機構本部より試行を1年間延長し、さらに調査研究を行う旨の連絡があったところである。さらに調査研究をして来年度1年間

を有効に活用し、施設の効率的な管理運営をおこなうべく、施設業務運営委員会と交流の家が協働で「新しい公共」を推し進めていきたいと考えている。本件について意見・質問等あれば発言いただきたい。

—質問、意見等なし—

#### ○部会長

今年度は各部会縦割りで審議を進めてきたが、平成 26 年度は、横のつながり、各部会連携で検討を進める必要のある事項がでてきている。地域の成人ボランティアの発掘・登用や 50 周年記念事業の準備推進がそれにあたる。来年度は、「新しい公共」の「新たな」一步の年になると考えられるので、引き続き、皆様のご協力をお願いしたい。それでは、この 1 年の取組について感想や要望があれば発言いただきたい。

#### □委員

施設業務運営委員会を美瑛の町に降りて開催はできないか。例えば今年は美瑛町で開催、来年は東川町で開催、などとすれば広報や大雪の PR も含めてできるのではないか。

#### ●事務局

第 3 回管理運営部会は美瑛町図書館で開催している。また、広報部会においては旭川のケーブルテレビで開催した実績がある。各部会は、「参加しやすさ」を一番に考えて実施しているが、東川町などでの開催も検討したい。

広報については、報道機関への記事掲載依頼を行っており、取り上げていただいている。

#### □委員長

地域成人ボランティアの登用を色々な形でお願いするのは良いこと。非常に面白い。ただ、高齢の方は送迎が必要になる場合もあるのではないか。また、施設マスタープランについて、国では予算を出してくれないのか。

#### ●事務局

地域成人ボランティアの登用に係る高齢の方の送迎は考えられるため、今後も協議を進めていく。

また、施設マスタープランは、機構の現行の予算配分方法が、実際に施設が破損してから予算を配分しているようにも見受けられる。老朽の進行をみながら、事前に予算配分していただけるような仕組みを訴えるためにも、ぜひ施設改修のロードマップの作成等、準備できることから始めてはどうかと考えているところ。

□委員長

そんなに老朽化しているなら、施設を廃止してはという議論も出てこないか。

●事務局

独立行政法人の見直し議論において、そういう声があがってくることも懸念される。そういう観点でも、たくさんの人に利用してもらい、利用実績をあげていく必要がある。

□委員長

来年度の自己収入をどうやって確保するか。難しいと感じるが。

●事務局

施設使用料は全施設共通の設定であるため、大雪だけ勝手に上げることはできない。

そのため、検討の観点として、大雪独自の施設であるプールに関して、受益者負担をお願いする意味で使用料の導入を検討していきたい。

○部会長

美瑛町との連携や多数の人への聴取により、良いアイデアが出ることを願う。

●事務局

寄附金や助成金は全て大雪の収入になるが、機構のシステムとして、大雪で独自収入を上げてもイコール大雪の支出予算に反映されない。このことも含めて考えていきたい。

□委員

施設マスタープランは、積算が大事。そこをしっかりとった方が良い。施設の維持管理の方法として、①壊れたら直す、②こまめにメンテナンスして長持ちさせる、の2通りあると思うが、機構は、①寄りだと感じる。施設の意義も考え、早めに手を打つことが大切ではないか。

●事務局

②のやり方が結果的に費用もかからないので良い。施設の意義も含めて検討していく。

○部会長

只今いただいた意見を反映させ、本委員会に入る。

會議終了

閉会挨拶

閉会宣言